

「第72回国民体育大会（愛媛大会）に向けた行動計画」

平成23年3月改訂



愛媛県体操協会
えひめ国体プロジェクトチーム

【 もくじ 】

1 行動計画策定の趣旨

2 目 標 設 定

3 現 状 と 課 題

体操競技

新体操

4 課題への対応策

体操競技

新体操

5 体 系 図

6 進 行 手 順

体操競技

新体操

7 メ ー ン

1 行動計画の趣旨

2017年、本県単独で「第72回国民体育大会（愛媛大会）」が開催されることが決定した。本県においては、1980年に行われた全国高等学校総合体育大会以来の全国規模での総合体育大会の招致となる。

愛媛県体操協会としては、この国民体育大会の体操競技・新体操競技会を成功裏に開催し、また、これを期に両競技の更なる発展振興と競技力の向上を図る絶好の機会と捉え、総力を挙げて臨みたい。

そこで、開催10年前である本年（2007年）より、計画的かつ効果的に大会運営、選手強化に取り組んでいくため、この行動計画を作成するものである。

平成23年3月改訂

2 目標設定

競技部

[体操・新体操共通]

- a) 国体本大会における試合会場・サブ会場・練習会場（男女各2）の確保および器具の充実（平成25年度全国中学校総合体育大会体操競技会開催）
- b) 国体における愛媛県役員の決定と役務の熟知

審判部

[男子]

プロジェクト（10年計画）を確実にし、どのような競技会においても、審判員としてのマナーを守り、公平・公正・正確にジャッジする強い意志を持ち、様々なトラブルにも適切に対応できる高い能力を持った1種審判員を10名育成することを目標とする。

[女子]

2016年の時点で15～16名の1種審判員が必要と思われる。そのため、各大会では1種目（6審制）3～4名の1種審判員で構成される審判育成を目指す。

[新体操]

- a) 1種審判員・補助役員の確保
- b) 審判技術・能力の育成

強化部

[体操男女共通]

- a) 計画的な指導による選手の継続的育成
 - 男子 強化計画案
 - 女子 チェックシート
- b) 体操競技専用体育館の建設と設備の充実

[新体操]

- a) 国体・IH優勝を目指す
- b) D・E難度以上の身体難度ができる選手の強化
- c) ジュニア選手の育成

普及部

[体 操]

- a) えひめ体操カーニバルの改善
- b) ホームページ作成について

[新体操]

- a) 競技人口のピラミッドの充実
- b) 大会開催時（カーニバル含む）のスポンサーについて
- c) 底辺・地域を対象とした教室の開催

3 現状と課題

【体操・競技部】

- 1 国体の開催場所は愛媛県総合運動公園体育館（女子サブ会場補助体育館含む）に決定したが、その他の練習会場を確保する必要がある。
また、現在競技をしている施設・設備も現競技規則に対応できる環境に近づきつつあるが、今後も継続的に県への要望をしていく。
- 2 全国規模の試合運営を経験している役員が少ないため、今後、全国規模の大会を誘致し、県内役員が経験を積むことが急務である。

4 課題への対応策

【体操・競技部】

- 1 体育館の建設・設備の導入
 - ・中体連、高体連、四国体操協会と連携をとりながら、具体的な事業の計画書を作成して、毎年詳細な要望書を愛媛県に提出し、関係業者との交渉を行う。
 - ・現在の器械、器具、設備等について引き続き改善する。
 - ・2014年度（平成26年）全国中学校総合体育大会体操競技選手権大会までに全ての設備を完備する。
- 2 大会運営
 - ①各種大会に関して、競技部、中体連、高体連と連携を取りながら検討し、よりよい運営を目指す。
 - ②役割分担
 - ◇競技部が各競技大会の委員を務める。
 - ◇大会委員長を中心に多くの関係者が競技役員として運営に携わる
ことができればよう競技部会で検討・決定し、役割分担を明確にする。
 - ③競技方法
審判会議・監督会議・閉閉会式・表彰式・入退場・競技役員配置、
競技振興などについては、早期に本国体の競技方法に近づけるよう努力する。

4 課題への対応策

【体操・競技部】

【体操・競技部】

- ④新しい試合の計画・実施
 - ◇2010年12月より検討委員会を開催し、次年度より実施する。
(愛媛県小学生大会)
 - ◇2011年度より実施する愛媛県小学生大会についての実施案の完成は6月下旬までとし、7月から競技部で準備に取りかかる。
(ただし、競技規則については審判部で検討する)
併せて愛媛選手権に関しては、3月から準備し、役員改選年は前競技部との協力により引き継ぎを行う。
 - ⑤試合の誘致
 - I 全国ブロックU-12体操競技選手権大会
2013年(平成25年度) 平成25年12月開催 国体4年前
 - II 全国中学校総合体育大会体操競技選手権大会【決定】
2014年(平成26年度) 平成26年 8月開催 国体3年前
 - III 全国高等学校体操競技選抜大会
2014年(平成26年度) 平成27年 3月開催 国体3年前
 - IV 全日本体操競技選手権大会
2016年(平成28年度) 国体前年
 - ※I～IVについては、2011年4月日本体操協会へ誘致を依頼する。
IIIについては、2012年2月高体連委員総会にて依頼する。
 - ⑥他県国体の視察
「進行手順」参照
- 3 上記I・2について、競技部を定期的に実施する。
(2008年開始 2010年12月から再考)

3 現状と課題

【 体操・男子審判部 】

【 現状分析 】

試合をつくるべく立場にある審判員が、審判員としてふさわしい服装やマナーを守れず、採点規則や競技規則を十分に熟知していないがために起こる、試合の長時間化や、監督・コーチからの採点に對するクレームの発生など、審判部全体のレベルの低さが各競技会で露呈されているのが現状である。1種審判員についても現在県内に男子が6名、女子については2名いるが、クラブチームで監督・コーチをしている役員が数名おり、競技会で審判業務を行えるのは実際3～4名である。国体前年までに合計4回の1種審判員認定講習会があるもので、10名の1種審判員を確保することはそれほど難しいことではないが、必要性の有無や、受講に伴う費用が高額に値する（受講料・旅費・その他を含めると6万円程度）などの理由から取得への動きはかなり消極的である。また、審判部内では競技会や講習会などで部員同士のコミュニケーションが図られているが、審判部以外の各部との連携はほとんどとられていないというのが現状である。

4 課題への対応策

【 体操・男子審判部 】

1 1種審判員資格取得奨励金制度の設置 ⇒ 課題①②
財源の確保や提案書の作成のための準備期間を3年～4年設け、2012年度の設置を目指す。

2 審判講習会の開催（男女別開催） ⇒ 課題①②③④
春・秋2回実施

県内の1種審判員が講師を務めるが、ルール変更に伴う年などは日本体操協会から講師を招き重点的に講習を行う。また、それは別に1種認定講習会を受講する審判員を対象に勉強会を開催することも考えている。

3 積極的な全国への審判派遣 ⇒ 課題②③④⑥⑦⑧
積極的な全国への審判派遣を行い、各競技会の流れや現在の体操競技の流れ、また今後の体操競技がどのような方向に向かっているのかなど、情報収集に努める。選手強化や各部の強化に結びつく形で収集した情報を県内にフィードバックできれば理想的である。

4 合同練習会や強化合宿への参加 ⇒ 課題③④⑤⑧
審判員のスキルアップと選手の意識向上を目的に強化事業の一環として、強化合宿などで行われる試技会に審判員を招き、実際に審判業務をさせる。

3 現状と課題

【 体操・男子審判部 】

【 課題 】

2で述べた目標から現状を差し引いてみると、愛媛国体を開催するにあたって、現在の審判部に何が足りないのか、何をしなければいけないのかという課題が明確になった。これからああげる課題それぞれに具体的な解決策や新規事業案を授け、それらを一つひとつ着実に実行していくことが愛媛国体成功への道しるべになると考える。

- ① 国体までに1種審判員を10名育成すること
- ② 1種審判員認定講習会にいきやすい環境を整えること
- ③ 審判員のマナー改善に努めること
- ④ 審判員の能力向上に努めること
- ⑤ 各部との連携を強化すること
- ⑥ 他県や中央とのつながりを強化すること
- ⑦ 選手強化に反映できる資料を作成すること
- ⑧ 選手が競技会で十分な力を発揮できる環境を整えること

4 課題への対応策

【 体操・男子審判部 】

- 5 競技会終了後に審判員を集め業務改善のための反省会を行う。
⇒ 課題③④⑦⑧
競技会で起きた問題や反省点、今後の課題などを意見として出し合い、その後の競技会や審判部の業務改善、強化に役立てたい。
- 6 主要な大会において「審判員報告書」を作成する。
⇒ 課題⑤⑦⑧
まず審判部内でのような内容のものにするかを検討し、来年度より試験的に開始する。改善を重ね、3年後をめどに選手強化に役立つものに仕上げたい。
- 7 6種目ローテーションの実施 ⇒ 課題③④⑤⑧
現状では愛媛選手権のみ
選手が全国大会を想定して試合に臨める環境を整えるため、競技部や主催者へ協力を呼びかけ、まずは2010年の県総体で実施を目指す。

3 現状と課題

【 体操・女子審判部 】

【 現状分析 】

2011年現在で、1種審判員は3名取得している。しかし、1種認定を取得するための情報や資格を得るための内容などは、一部の関係者しか把握できていない。インターネット等で調べることが可能であるが、ほとんど認識もされていないのが現状である。

また、予算が少ない理由もあり現在審判員の数は最小限で構成されている。そのため県内の試合のみでは数多くの審判員が実際に試合で実践できる機会がない。年に2回開催される県内での講習会においても、まだまだ受講数が少なく受講後に生かされる場面が見られない。

【 課題 】

- ① 審判員の増員・育成レベルアップ
- ② 情報提供の拡大・把握
- ③ 予算の確保
- ④ 強化合宿への参加
- ⑤ 県外試合への参加

4 課題への対応策

【 体操・女子審判部 】

【 対応策 】

- ① 審判員の増員・レベルアップ
 - ・ 資格取得奨励制度の設置により、1種審判員の確保
 - ・ 東京開催の講習会への複数参加
 - ・ 県外試合の経験(西日本ジュニアや全日本ジュニアへ参加)
 - ・ 2017年、2年前からの種目審判の固定
 - ・ 1種を取得するための講習会の実施
- ② 情報提供の拡大・把握
 - ・ 紙面での配布
 - ・ 試合後のミーティング実施
- ③ 強化合宿への参加
 - ・ 強化合宿で試合を実施する際、ジャッジする(選手・審判双方にメリットがある)
- ④ 県外試合への参加
 - ◆ 西日本ジュニアや全日本ジュニアは各所属からの出費が義務付けられているが、県代表の一部費用として協会から負担する。

3 現状と課題

【 体操・男子強化部 】

1 進捗状況

成績から見ると、ほぼ計画通りに向上していると思われる。今後は6年後の本国体にて結果を残ることを、より確実なものにするための行動を細かく考える必要がある。

2 成績

◇少年男子
以前は予選落ちの常連チームであったが、決勝進出することが当然のレベルになってきている。選手たちの意識レベルも向上している。

◇成年男子

ここ数年卒業生が戻り出場しており、本国体に出場できたとしても、下位を争っているが現状なのは変化していない。今後は選手の世代交代もあるため、向上は確実である。

3 環境

国体を成功させた県を対象に考察すると、明らかに練習環境が不十分であり、特に強化選手が定期的に実施すべき合同練習会や合宿(その他幅広い層の練習会など)を考えるとできるだけ早期に練習環境を改善する必要があると考えられる。

4 指導者育成

指導者同士のモチベーションや目的が統一でないため、同一クラブ内でも、各々の指導によって選手育成が異なる。これを打開するため、県内の合同練習会や講習会を行うことにより、解決しようとしている。今後は、より具体的に指導者の意識統一がなされるように工夫していく。

4 課題への対応策

【 体操・男子強化部 】

【 対応策 】

① 練習環境の整備

まず愛媛国体を成功させるために、あと6年で1番必要なことは、床フロアの導入である。専用の練習場ができることは理想だが、まずは全国大会で使用される床フロアが愛媛県には一つもない状態をなんとか打開したい。県内には全国大会で使用される公認の最新フロアは一つもないのが現状である。県総合体育館の旧式のフロアが3つあるのだが、せめて1つだけでも最新式に差し替えられると競技力向上に非常に大きな役割を果たす。

② 愛媛選抜チームを作る

体操競技小中学生の競技力の向上において、全日本ジュニア連盟が主催する「全日本ジュニア体操競技選手権大会」という試合がある。この試合は、小学生から高校生までのジュニア期の子どもたちにとつて、国内の大会では最も大きな大会である。さまざまな学年やレベルに合わせたクラス別の試合であり、ジュニアの日本代表や強化指定選手などに選出されるチャンスがある。

県内の小中学生男子は、なかなかこの大会を経験できている選手がいないが、近年の日本のトップ選手たちは小学生の時からこの大会を経験している選手がほとんどである。愛媛国体へ向けて、一刻も早く愛媛県体操協会の選抜チームとしてこの大会に参加できるようなシステムを作成し、この大会を通じて県内のジュニア選手の競技者としての意識レベルの向上に繋がるようにする必要がある。

3 現状と課題

【体操・男子強化部】

5 強化

アドバイザーチームの制度も最大限に活用しながら、本国体の開催県でしか得られない環境は整備されつつある。愛媛国体で結果を残し、さらにその先にも続いていくような強化体制を確立していく時期に入っている。

そこで、指導に関するの一貫性は不可欠である。決して多くはない体操人口の中から結果を求めざるわけだから、所属単位にとらわれてはいけいない。

※一環指導のプログラムは別紙参照

【課題】

上記1～5を現状として捉え、今後の課題を抽出する。

- ① 練習環境の整備
- ② 愛媛選抜チームを作る
- ③ 県内男子選手の指導を一貫させる。

4 課題への対応策

【体操・男子強化部】

③ 県内の男子選手の指導を一貫させる

全国小学生・全日本中学・インターハイ・国体・全日本ジュニアなど全国レベルの大会で、どのくらいの実績が実施できると上位に入るレベルなのかはある程度理解はできている。子どもたちをそのレベルまで効率よく引き上げるための指導方法を、県内の指導者が共通認識し、なおかつ所属の垣根を越えた指導体制を作り上げる必要がある。

3 現状と課題

【体操・女子強化部】

1 進捗状況

県内講習会などを実施することにより、各所属練習メニューなどを改善しながら取り組めるようになってきているが、成績に関しては、さほどの変化がない。これを踏まえて指導者同士が協力体制を作る必要が不可欠である。

2 成績

◇少年女子

残念ながら現状は、予選通過を目指すチームである。この予選通過を目指したチーム状態では、いつまでも入賞レベルに達することができない。成績を上げるためにまず実施すべきことは選抜選手の合同練習と合同合宿の数をこなすことである。審判部と連携をとりながら成績向上を目指すことがよりよい策である。

◇成年女子

昨年の千葉国体に出場することができたが、現状として選手不足に変わりはなく、まずは選手確保が当面の目標である。

3 環境

練習環境については、各所属負担で器具を購入し、設備の充実に努めているが、引き続き県への対策を要望する。

4 指導者育成

年に数回の講習会(練習会)が定期的に実施されるようになってきたが、その際中央から講師を招聘し継続的に指導を受けている。若い指導者も積極的に参加し、指導方法について学ぶことができるとともに、全体的に県内指導者の国体に向けての意識が高まってきた。

4 課題への対応策

【体操・女子強化部】

【対応策】

【課題①】

講習会で講師に与えられた課題を継続するレベル別(初級・中級・上級)に課題を設定し、チェックシートを作成する。(強化部担当者)

課題のチェックは指導者全体が同じ目線でチェックを行えるように指導者の目を養う。

【課題②】

練習会において、指導者各々が得意分野を担当する。得意分野については、講習会などで吸収できるよう心がける。また、全国講習会などに参加し伝達講習会として県内の指導者が談義する機会を持つことで統一見解を持つことができるとする。全国講習会に参加する場にかかる費用については強化の一環であるため、引き続き、協会から指定選手とコーチに補助金として負担してもらえようとする。



3 現状と課題

【体操・女子強化部】

5 強化

基本事業である県外遠征や、小中学生発掘事業を有効に活用しながら、選抜チームを強化していきたい。

また、本県体の開催県でしか得られない環境という状況を考えると、整備されていく方向性が見えてきているので、本格的に強化体制を確立していかなければならない。

指導に関しての一貫性は不可欠であるため、現状の体操人口で結果をだしていきたくためにも、所属単位にとらわれた指導ではなく、県内指導者全員一致の指導方法が成功の鍵となる。

※チェックシートについては別紙参照

【課題】

上記1～5を現状として捉え、今後の課題を抽出する。

- ① 各種目の課題項目を設け、各所属でチェックを行う
- ② 指導者の役割を明確にする
- ③ 練習環境について県へ要望を続ける
(床フロアへの購入など)
- ④ 全日本ジュニア連盟への登録について

4 課題への対応策

【体操・女子強化部】

【課題③】

公設・常設の専用体育館での合同練習会を毎月1～2回実施する。県内の所属で協力し合い、各クラブを提供してもらい、合同練習会を実施する。

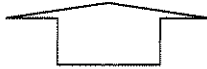
【課題④】

該当年度の愛媛選手権大会と10月実施の小学生大会において、少年女子、小学生ともに上位8名を強化指定選手として選抜する。

その上位8名が全日本ジュニアへ「愛媛県体操協会(仮)」として登録し、強化選手以外は各所属で登録する。

その登録名で西日本ジュニア・全日本ジュニアへ出場していく。協会の選抜選手のため、個人登録は各自で行うが、所属団体の登録料は協会で負担する。

また、国体強化をしていく上では、大会出場への援助金を設けていく必要がある。



3 現状と課題

【 体操・普及部 】

【 現状分析 】

- ・現在のジュニア人工が減少傾向にある。
- ・県内小学生大会が少ない。
- ・ジュニア強化練習会・県外遠征を年に数回実施している。
- ・ジュニアの普及活動を各クラブが積極的に行っている。

【 課題 】

- ・県内小学生大会を増やし強化すること。
- ・練習会・県外遠征の回数を増やし強化すること。
- ・ジュニアの普及活動を行い、体操協会主催で体験教室を行う。



4 課題への対応策

【 体操・普及部 】

【 対応策 】

- ①平成23年度より第一回小学生大会が決定した。今後団体に向けて普及と強化がより良いかたちでできるように、大会後に各クラブ、関係者が集まり試合内容を改善していく。
- ②予算の限り、今後も練習会、県外遠征の回数をとり強化する。それ以外にも練習可能な施設（県内高校）に選抜メンバー（県内競技成績上位者及び国体世代現在の小学2～5年）を優先して集め強化練習会を開く。
- ③体操人口ジュニア層拡大のために定期的に体験教室を実施する。各クラブに所属している子を集めるのではなく、県内の幼稚園・保育園・学校などに案内をお願いし、可能なところに配らせてもらい募集をしていく。

【 得られる効果 】

- ◇ 体験者にジュニアクラブの紹介を行う。
- ◇ パンフレットを配布し勧誘する。
- ◇ ジュニア層の底辺拡大。

3 現状と課題

【 新体操・競技部 】

【 現状分析 】

- 1 会場・施設・設備の準備と把握
(現状)
開催場所・愛媛県総合運動公園内 体育館
(課題)
競技会が円滑に進行できる環境作り
- 2 国体における愛媛県役員の決定と役務の熟知
(現状)
・愛媛県ジュニア新体操選手権大会や、愛媛県新体操小学生
ひめCUP等愛媛県体操協会主催の大会において、役割を分
担して役務を行っている。
・競技会で出た問題点やクレームを次の大会の課題とし、競
技会ごとに改善しているのが見られている。
(課題)
県内の試合規模が小さいため、全国レベルの大会の誘致が必
要である。

4 課題への対応策

【 新体操・競技部 】

【 1 に対する対応策 】

- 機械・用具・その他、設備が充実するために、愛媛県総合
運動公園で行われる大会で、不足しているもの・必要な設備
を把握し、県に要請、及び対策をねる

【 2 に対する対応策 】

- ①試合運営の検討
- ②全日本レベルの大会の誘致
全日本学生新体操選手権大会の誘致計画
- ③他県国体の視察

H23 (山口)	3名
H24 (岐阜)	5名
H25 (東京)	7名
H26 (長崎)	10名
H27 (和歌山)	10名
H28 (岩手)	10名

- ④四国ブロック大会・ジュニア選手権大会・小学生大会の充実

- 国体を意識した大会運営を行い、役割業務を分担し熟知する

3 現状と課題

【 新体操・審判部 】

【 現状分析 】

- 1 審判員・補助役員の確保
(現状)
◎H22年度審判更新・新規取得者について
1種 10名 2種 41名 3種 33名
(課題)
①仕事・妊娠・出産など、不測の事態を予測してより多くの審判員・補助役員を確保したい。
②●審判員・・・D1・D2・A・EX審判に各1名ずつ
(県内審判) 1種審判員が最低4名必要
●審判員以外・・・補審(2名)線審(2名)計時(2名)
コーデ、ネター、ジャッジ(3名)の9名必要
- 2 審判技術・能力の育成
(現状)
よりハイレベルな審判員が必要
(課題)
①1種・2種に問わず質の高い審判員の育成
②新しい情報の収集

4 課題への対応策

【 新体操・審判部 】

【 1に対する対応策 】

- 1種審判講習会の積極的受講
- 2, 3種審判員の1種取得
- 競技者やジュニア、中学校での経験者に声をかけ、審判資格取得に繋げる

【 2に対する対応策 】

- ルール改正時における審判講習会の開催
→中央の審判部に依頼する
- ルール研修会や情報交換会の開催
→迅速に、正しい情報がより多くの審判員に伝わるようにする
- 審判講習会への積極的参加
- 各部の業務や活動内容の把握
- 他県や中央とのパイプの強化
- 強化部との連携
(1) 合同練習や強化合宿への参加
(2) 各競技会後に報告会を行いレポートを作成し、選手強化に役立つものに仕上げる



3 現状と課題

【新体操・強化部】

【現状分析】

(現状)

- 平成22年度、大会結果
- ・四国ブロック予選 1位通過
- 選手5名(済美高校5名)
- 補欠2名(聖カタリナ高校1名・済美高校1名)
- ・選手選抜方法
- ・県総体個人の結果上位より選出・練習開始・・・7月より
- ・本戦結果・・・14位

(課題)

- 1 高校まで繋がる選手の育成
- 2 新体操に求められるスタイル、身体能力、技術力の向上
- 3 指導者の指導技術の習得
- 4 強化計画案の作成及び実行
- 5 選手選考の基準の決定

4 課題への対応策

【新体操・強化部】

1 に対する対応策

- ・ジュニアと高校生との合同練習会を開催し交流を深める

2 に対する対応策

- ・アドバイザーコーチ事業や強化事業などを通して選手の意識、自己管理能力を高める

3 に対する対応策

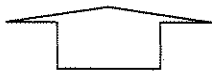
- ・アドバイザーコーチ事業で最新の情報を習得する

4 に対する対応策

- ・短期及び長期の強化計画の実行と問題点と改善点の見直し

5 に対する対応策

- ・選手選考については選考会を行い現行通り選抜とする
- ・選手選考は、県内指導者が行う
- ・選抜方法は、競技会結果、スタイル、身体能力、技術力などを見極め総合的に選考する。



3 現状と課題

【新体操・普及部】

【現状分析】

(現状)

- ① 部活として活動しているのが中学校1校、高校2校のみで、ジュニア選手と合わせても競技人口が少ない。
(愛好者は、約1000名。そのうちの約200名が競技者)

学年別数	1年	2年	3年	4年
5年	29名	25名	118名	221名
中	33名	総数174名		
- ② 指導者を目指す者が少ない。(特に、学校の教員が少なく、部活動の少なさに繋がっている)
ジュニア→中学→高校→大学に上がっていくシステムがない
- ③ スポンサーの確保、マスコミ、幼稚園、小・中・高校に対しての宣伝活動があまりできていない
(課題)
- ① もっと活動できる学校・場所を増やすことはできないのか。
- ② 競技者・指導者を増やすことはできないのか。
- ③ 選手(強化指定以外の選手)、指導者(今後なりうる者、現在指導をしている者)に対しての普及講習活動
- ④ 様々な活動をするための、財源の確保

4 課題への対応策

【新体操・普及部】

【①に対する対応策】

- 県に対して、教員採用・学外コーチ増員などを要望する
- ジュニアから、大学、指導者に繋がっていくシステム作り

【②に対する対応策】

- 徒手や手具操作などを、レベル別に検定していく会を開催
(新体操をしたことのない子どもや、好きで続けている子どもが、長く新体操を続けられるように、小1～中学生、高校生まで広げたいのではないか)
- 中3生、高3生に対しての呼びかけの実施
(中3生が、高1生になったときに、審判資格取得ができる等の情報提供)
- 幼稚園、小・中・高校など対して、各大会、カーニバルなどの普及、宣伝活動の実施

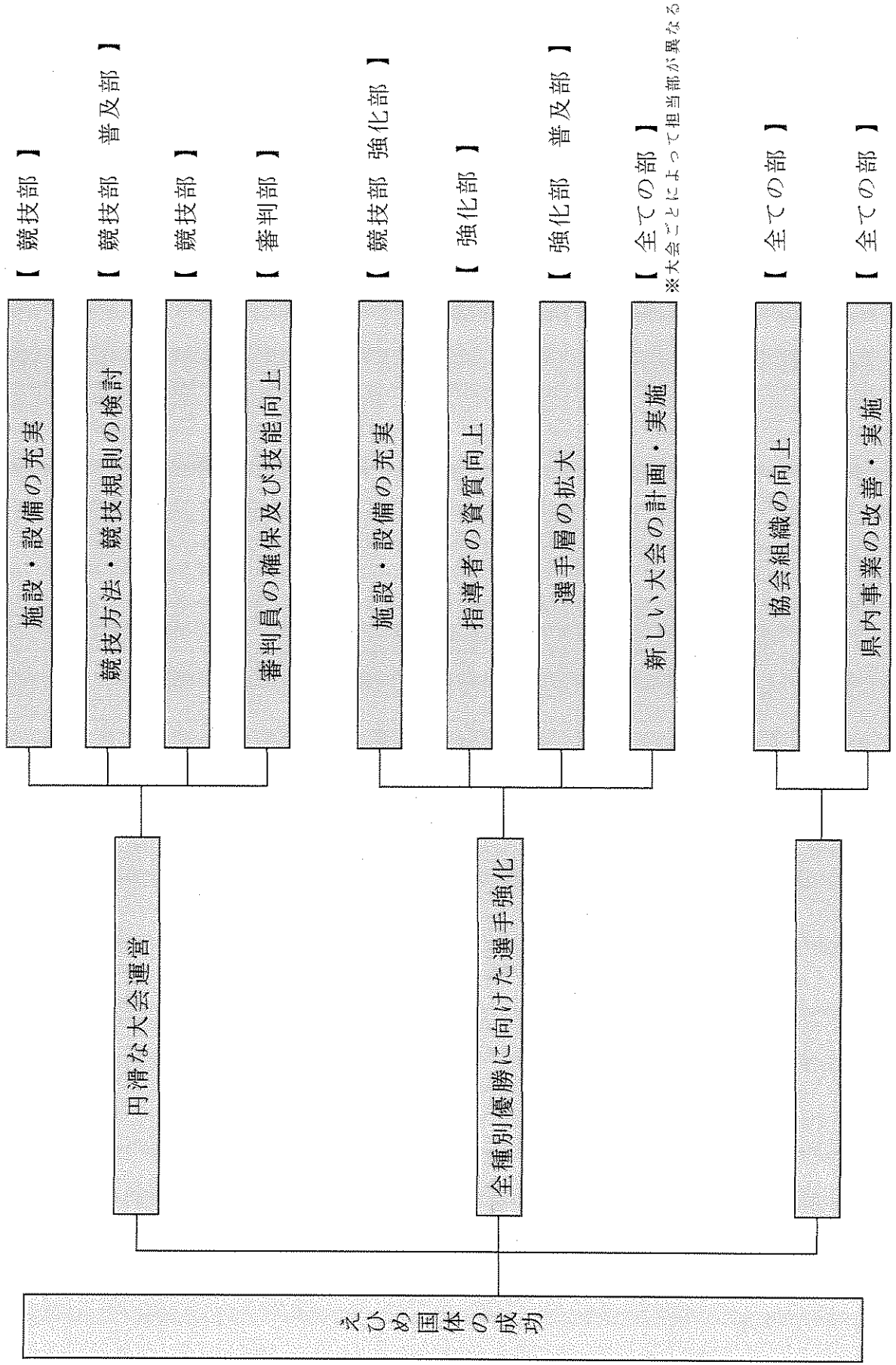
【③に対する対応策】

- JOCの講習会、選手対象の体験教室の実施

【④に対する対応策】

- スポンサーのついた競技会の実施
- マスコミに対して、各大会、カーニバル等の宣伝活動

5 体系図



6 進行手順【体操・競技部】

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)			
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛			
オリンピック 開催場所	北京				ロンドン				リオ				
方 策 及 び 事 業	体育館の建設 設備の導入	毎年愛媛県へ 要望書提出			毎年県へ要望書を提出し、 2014年度までに全ての設備設置 完了を目標とする				国体設備の 最終完成 (最終確認)	愛媛国体競技 場・設備修理・ 点検交換			
	①大会運営 ②役割分担 ③競技方法	競技規則・運 営方法の検 討	新規則・運 営方法 ・役割分 担の適用		競技部・中体連・高体連と連携 し、よりよい運営をしていく。 また、全国大会を誘致するこ とにより運営委員のスキルも向 上する。				大会役員決 定	リハーサル 大会で確 認			
	新しい試合の計画・実施	新しい県大会の検討	新しい県大会を実施	検討委員会開催 (十二月) 次年度より実施	2011年度 2011年3月から準備 6月実施案完成 10月実施 2012年度から 愛媛選手権と国体予選を別日に開催し、選 手が試合慣れできる環境にしていくことを 努力目標とする。 (男子6種目、女子4種目を試合と同じ 状況で実施する)								
	リハーサル大会の誘致	日本体操協会・高体連・全日本 ジュニア連盟にそれぞれ誘致を依頼	全国ブロック選抜U12 体操競技選手権県内役員決定	全国ブロック選抜U12 体操競技選手権開催	日本体操協会・高体連 にそれぞれ誘致を依頼	全国ブロック選抜U12 体操競技選手権開催	全中大会・高校選抜大会開催	国体・全日本選手権 県内役員決定	国体県内役員決定 全日本選手権開催				
他県国体の 視察	大分 (2名)				岐阜 (5名)	東京 (5名)	長崎 (7名)	和歌山 (7名)	岩手 (7名)				

愛媛国体開催

6 進行手順 【体操・審判部（男子）】

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)	
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	
オリンピック 開 催 場 所	北京				ロンドン				リオ		
1種認定講習会	◎	◎			◎	◎			◎		
方 策 及 び 事 業	① の 1 種 審 判 員 の 確 保	2 名	2 名			3 名	準備完了！ 3名			プラスα最強 審判団完成！	
	② の 取 得 設 置 ① 種 審 判 員 資 格	承認 プロジェクト案	準備期間 ・財 源 の 確 保 ・提案書の作成など			奨励金制度設置					
	③ 審 判 講 習 会 の 開 催	<ul style="list-style-type: none"> ●春と秋，年に2回開催 ●県内の1種審判員がほとんどの講師を務めるが，4年に一度くらいは日本体操協会から講師を招き重点的に講習を行う ●上記と別に1種認定講習会を受講する人を対象に勉強会を開く ●2014年から国体本番に向け，1種審判員が集まり定期的に勉強会を開催する 									
	④ 参 加 強 化 合 宿 へ の 合 同 練 習 会 や	承認 プロジェクト案	審 判 強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案	強 化 合 宿 を 提 案
	⑤ 各 競 技 会 後 に 報 告 会 を 行 い レ ポ ー ト を 作 成 す る	試験的 に開始	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね	濃 い 内 容 の 改 善 を 重 ね
	⑥ 6 種 目 の 実 施	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権	愛媛選手権
				派遣開始							
				資料として完成 ↓各部に配布							
				上記以外の競技会 でも実施を目指す							

愛媛国体開催

6 進行手順 【体操・審判部（女子）】

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開 催 場 所	北京				ロンドン				リオ	
1 種 認 定 講 習 会	◎	◎			◎	◎			◎	
方 策 及 び 事 業	保① 一 種 審 判 員 の 確 保	現在 二名	一 名 増		奨 励 金 制 度 設 置 二 名 増	二 名 増	※県外から1 種取得者がく れば多少余裕 ができる。		全 体 二 名 増 九 名	
	レ ベ ル ア ッ プ ・ 育 成	①毎年東京開催の講習会へ参加・伝達 ②県外内試合・試技会への参加 ③1種取得のための講習会の実施 ④年数回の勉強会 ⑤2・3種の増員 ⑥D審判員の育成						種 目 審 判 の 固 定	"	
	② 情 報 提 供 の 拡 大 ・ 把 握	・最新の情報を紙面で配布 ・試合前後のミーティング実施・記録 ・連絡網の充実							"	
	③ 強 化 部 と の 連 携	・各クラブの試技会に参加の実施 ・合同練習会・強化合宿への参加 ・国体ブロック予選や試技会への参加 ・強化部との連携を密にする								
	④ 審 判 講 習 の 開 催	・年に1回開催 ・2～3年に一度、日本体操協会から講師を依頼し、講習会を開く								
⑤ 予 算 の 確 保	毎年 の 審 判 講 習 会 で 講 習 料 を 徴 収 し、 そ れ を 審 判 事 業 に あ て る ※1) ③ 予 算 の 確 保 に て 確 保 で き た 金 額 の 一 部 を 県 の 補 助 金 と し て 負 担 す る。 ※2) 毎 年 審 判 部 で 県 外 試 合 に 対 し て の 調 査 を 実 施 し 予 算 と し て 算 出 す る。									

愛媛国体開催

6 進行手順 【体操・強化部(男子)】

No 1

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開催場所	北京				ロンドン				リオ	
方 策 及 び 事 業	育成プログラムの長期的実施	<p>完成 本国体に向けての行動計画</p> <p>プロジェクト案実行 (1) 基礎(柔軟・トレーニング) (2) 育成(種目基礎・トランポリン) (3) 選手(専門技術)</p> <p>※1 ジムナステーリングなどが実施されるようになるなど、初心者から試合の感覚を味わえ、競技を行っている成果は分かりやすくなってきている。</p> <p>※2 各所属と連携をとり足並みを揃えながら素質のある選手を育成する</p>								
	強化選手	各クラブ3〜4名 (小学校低学年)	愛媛選手権 上位約8名	愛媛選手権各学年 上位約4名	選手権・四国・県ジュニア上位者で強化選手を固定・各種大会(関西・西日本・全日本Jrなど)への出場	強化選手固定(8名) 国体への意識を持たせる	主要大会上位入賞 (全日本ジュニア等)	成年も見据え強化選手固定(小6〜大1で各種別5〜8名)	強化選手固定(各種別最低6名)	"
	b. a. 強化練習会 選抜合宿	a. 合同で年3回 b. なし		a. 年4回 b. 年1回	a. 年4回 b. 年1回	a. 選抜選手 試合前 b. 年2〜3回 と試合前		a. 選抜選手試合前 適宜対応 b. 年2〜3回 と試合前		
	成績 左列は全国大会 右列は四国大会	予選通過一六位 三位	予選落選 二位	予選通過一七位 優勝	十三位以内 優勝	十位〜十二位以内 優勝	十二位以内 優勝	十位以内 優勝	八位以内 優勝	六位以内 優勝
指導者の役割育成	※(1)強化スタッフをまとめる責任者を配置 ※(2)強化スタッフは各所属のコーチ ※(3)指導方法の統一化 ※(4)強化スタッフが交代もしくは複数で全国講習会に参加し、伝達 ◎若い指導者の育成 ・選手参加型の講習会はなるべく参加する ●若い指導者が率先して指導ができる環境(プログラムの完成)を早期に作り上げる。			一貫指導プログラムの作成と実施						

愛媛国体開催

6 進行手順 【体操・強化部(男子)】

No 2

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)	
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	
オリンピック 開催場所	北京				ロンドン				リオ		
方 策 及 び 事 業	アドバイザー コーチ	九州共立大学男子監督 相原豊先生に依頼			年4～5回来県して頂く 現在の国体チームと愛媛国体の 年に主軸の強化指定選手の指導			愛媛国体の年に 主軸の強化指定 選手の指導			
	練習環境の 整備	松山市体操協会役員決定 運営委員会設置	方策実行へ体操専 用・県へ体操専 用体育館建設要 望書を提出			<ul style="list-style-type: none"> 他県のように専用体育館が建設されることは理想ではあり、要請は続ける 強化のことを考えると、県の体育館に1つでもバネのフロアが導入されることが優先である 			愛 媛 国 体 開 催		
	愛媛選抜チ ーム	県外の充実した施設へ強化合宿に行く際に、選抜して強化メンバーを 選考			<ul style="list-style-type: none"> 全日本ジュニア連盟への加盟が選手強化に大きく影響される 全日本ジュニア連盟が主催する大会に参加することで、選手たちが全国大会でのトップ選手たちに追いつき追い越そうとする気持ちを養う 						

6 進行手順 【体操・強化部(女子)】

No 1

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開催場所	北京				ロンドン				リオ	
方 策 及 び 事 業	① 育成プログラムの長期的実施	年内プロジェクト検討委員の選出 次年度の総会にて提案を作成し		講習会での講師からの課題を各所属で継続する レベル別（初級・中級・上級）に課題を設定し、 チェックシートを作成する。（強化部担当者） 課題のチェックは指導者全体が同じ目線でチェックできるように指導者の目を養う ※チェックシートは年度ごとに見直すこととする （3月強化部会を開催）						
	強化選手	各クラブ3〜4名 （小学校低学年）	愛媛選手権 上位約8名	愛媛選手権・四国ジュニア上位者で強化選手を固定・各種大会（関西・西日本・全日本JrIなど）への出場	愛媛選手権上位8名 小学生大会上位8名 上記選手は次年度の強化選手として愛媛県体操協会で全日本ジュニアへの登録をする。県の所属として全日本ジュニア・西日本ジュニアへの参加をする。 その他の選手は、各所属で登録し、出場する形をとっていききたい					
	b. a. 強化練習会 選抜合宿	b. なし a. 合同で年3回		b. 年2回実施 a. 選抜選手年3回	b. a. 選抜選手年3回 a. 選抜選手試合前 2ヶ月に一回 できれば、県内施設での合同合宿 b. 毎月実施 課題のチェック 適宜対応 その他、講師を招聘しての事業での練習会					
	成績右列は全国大会 左列は全国大会	ブロック2位 本国体27位 （予選落ち）	ブロック2位 本国体25位 （予選落ち）	ブロックなし 本国体24位 （予選落ち）	優勝 目標18位以内	優勝 目標16位以内	優勝 目標14位以内	優勝 目標12位以内	優勝 目標10位以内	優勝 目標8位以内
② 指導者の役割育成	※(1)強化スタッフをまとめる責任者を配置 ※(2)強化スタッフは各所属の担当コーチ ※(3)話し合いの場を持ち、指導方法の統一化 ※(4)強化スタッフが交代もしくは複数で 全国講習会に参加し、各スタッフに伝達 ◎若い指導者の育成 ・選手参加型の講習会はなるべく参加する ●若手が率先して指導ができる環境（プログラムの完成）を早期に作り上げる。			練習会などでは、おもに各自得意分野を担当する 不得意分野については、講習会などで指導を吸収する 全国講習会などに参加し、その内容を県内指導者に伝達する レベルに応じて課題 （チェックシート）の作成（講習会ごとに相談） ※同じ目線でのチェックをする ◎上記のことを県内指導者全体で継続していく ◎若手が積極的に地元へ帰り、指導ができるような環境作り （指導者間のコミュニケーション）を心がける						

愛
媛
国
体
開
催

6 進行手順 【体操・強化部(女子)】

No 2

年 度	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)	
国体開催場所	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	
オリンピック 開催場所	北京				ロンドン				リオ		
方 策 及 び 事 業	アドバイザー コーチ	<p>地元開催ではほとんどが実施している。県外コーチを招聘する場合、6年前くらいまでを目安に決定する必要があるのではないか。</p> <p>※早ければ早いほど結果に繋がる。</p>			<p>アドバイザーコーチ 大野和邦(IGC) 小中学生発掘事業講師 高堰雪梅(日体大) アドバイザーと小中学生事業講師の 2名で強化していくことを目指す 国体が近づいてくれば、高堰氏の講師 としての位置づけを再検討する</p>						
	③練習環境の整備	<p>◆各部発案の方策を実行</p> <p>■市・県へ体操専用体育館建設 要望書を提出</p> <p>※体育館建設までには協会に携わる 指導者全体の協力が必要である。</p>			体育館 建設 完了						

愛
媛
国
体
開
催

6 進行手順 【体操・普及部】

年 度	2007 10年前	2008 9年前	2009 8年前	2010 7年前	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	秋田	大分	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開催場所		北京				ロンドン				リオ	
方 策 及 び 事 業	えひめ体操カーニバル について	内容の再検討を行う。 実施は例年通り。	→ 色々な考え方，方法を取り入れ， 少しずつ良いものを目指していく。								
	愛媛県体操協会HP について	予算の問題が解決次第 作成をする。	→ 色々な考え方，方法を取り入れ， 少しずつ良いものを目指していく。								
	各シニアクラブの紹介・宣伝	HPができれば，掲載することが可能となる。演技会などにも活動は広げられる。	→								
	県外の普及に関する 情報収集	色々な考え方，方法を取り入れ，少しずつ良いものを目指していく。	→ 県外の普及に関して参考になるイベントなどに 協会からの予算で視察する人を派遣する。								
	小学生対象の試合 について	検討委員会の設置・運営部署，メンバーを決める。	→ ルールや開催時期など，詳細が決まり次第実施								

愛
媛
国
体
開
催

進行手順

競技部

年 度	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (12)
国体開催場所	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開 催 場 所		ロンドン			リオ		
方 策 及 び 事 業	会場・施設・設備の準備と把握	愛媛県総合運動公園で行われる大会で、不足・必要な設備を把握し、県に要請、及び対策をねる		全日本選手権会場施設・設備修理 ・点検・交換	四国ブロック大会 (リハーサル大会)	愛媛国体競技会場施設・設備修理 ・点検・交換(最終確認)	愛 媛 国 体 開 催
	試合運営の検討	競技規則・運営方法・役割分担の適用					
	全国レベルの大会の誘致		全日本学生新体操選手権大会の誘致要請			全日本選手権大会開催	
	他県国体の視察	山口 3名	岐阜 5名	東京 7名	長崎 10名	和歌山 10名	

審判部

年 度	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開 催 場 所		ロンドン		リオ			
方 策 及 び 事 業	審判員数 一〇名 現状	一種 一四名 (四名増)	一種 一八名 (四名増)		一種 二三名 (四名増)		愛 媛 国 体 開 催
	審判講習会の開催	ルール改正時に中央の審判部に依頼し講習会を開催	ロンドンオリンピック後の、ルール改正時に中央の審判部に依頼し、講習会を開催(中四国ブロック)	→			
<p>ルール研修会・情報交換会の開催</p> <p>① ルールの変更が生じた場合、迅速に情報がより多くの審判員に伝えられるようにする。</p> <p>② 大きな大会への審判派遣を行い、経験を積む。</p> <p>③ 各試合終了後、質問等を受け付け後日回答する。</p>							

普及部

年 度	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)
国体開催場所	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛
オリンピック 開催場所		ロンドン		リオ			
方 策 及 び 事 業	活動でできる学校・場所の確保 ○ ○ の増員要望 がジュニアからシステムづくり の県に対して教員採用など						
	競技者・指導者の増員 ○ ○ 検定会を実施 一般の子供たち対象の 体験教室の実施						
	選手・指導者に対しての普及・講習活動 ○ ○ JOCの講習会の実施 選手対象の体験教室の 実施						
	普及・財源確保の宣伝活動 ○ ○ スポンサーのついた競技 会の実施 マスコミに対しての宣伝 活動						

愛 媛 国 体 開 催

強化部

年 度	2011 6年前	2012 5年前	2013 4年前	2014 3年前	2015 2年前	2016 1年前	2017 (H29)		
国体開催場所	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛		
オリンピック 開催場所		ロンドン							
方 策 及 び 事 業	選抜チーム年間の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・4月末までに選手選考をする ・団体演技・個人種目の決定 ・8月、四国ブロック通過を目指し、春、夏、休日強化にあたる ・9月、国体本戦（終了後、反省会） 			<ul style="list-style-type: none"> ・特に個人選手の強化 		愛媛国体メンバーで各大会に臨む	愛 媛 国 体 開 催	
		八位以内入賞	六位以内入賞	六位以内入賞	三位以内入賞	三位以内入賞	三位以内入賞		
	アドバイザーコーチ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜された選手の強化 	→						
	強化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・年四回中央からのコーチによる強化練習会を実施 ・県外遠征 	→		<ul style="list-style-type: none"> ・県選抜チーム結成として各大会に出場 	→			
	県内ジュニア大会の開催	全日本ジュニア大会出場選手の育成	→						
新体操コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会	四国ブロック研修会2回 愛媛県コーチ研修会		